資料２

今年度の関連調査　進捗報告

<table>
<tr><th>調査名称</th><th colspan="2">① 重点テーマに関する事例・実態調査</th></tr>
<tr><td>調査概要</td><td colspan="2">全国の先進的な博物館・施設への視察とヒアリング取材を実施する。視察対象は、収集・保管、展示・公開、連携・協力など新博物館の機能や管理運営の項目ごとに選定された施設を想定。
また県内の地域博物館（山形県博連絡協議会加盟館）を対象としたアンケート調査により、機能や連携に関する意見を幅広く収集する。</td></tr>
<tr><td>委員会の議論、構想書への活用</td><td colspan="2">基本構想における新博物館の基本理念、機能、管理運営等に反映する。またアンケート内容から、山形県ならではの特性やニーズを踏まえた基本理念や重点機能の具体化に繋げる。</td></tr>
<tr><td rowspan="11">進捗報告</td><td colspan="2">以下の博物館・施設について、機能、管理運営に関するテーマをそれぞれ設定し視察とヒアリング取材を行った。現在、各館の視察・取材で得た知見の分析を進めている。</td></tr>
<tr><td>博物館・施設の名称</td><td>視察・ヒアリング取材テーマ</td></tr>
<tr><td>松本市立博物館</td><td>総合博物館としての地域らしさの表現、地域の多様な主体との連携</td></tr>
<tr><td>三重県総合博物館</td><td>総合博物館としての地域らしさの表現、民間企業との連携・協力、広報</td></tr>
<tr><td>滋賀県立琵琶湖博物館</td><td>総合博物館としての地域らしさの表現、調査・研究の推進体制</td></tr>
<tr><td>大阪市立自然史博物館</td><td>市民協働を重視した普及教育、博学連携</td></tr>
<tr><td>兵庫県立兵庫津ミュージアム</td><td>地域らしさの表現と観光誘致、デジタル技術を活用した展示による地域の魅力発信</td></tr>
<tr><td>なら歴史文化芸術村</td><td>文化財保護・救出、付帯施設との連動</td></tr>
<tr><td>鳥取県立美術館</td><td>学習・交流の推進体制、PFI 事業での新設整備と運営体制、民間企業との連携・協力</td></tr>
<tr><td>徳島県立博物館</td><td>総合博物館としての地域らしさの表現、インクルーシブデザインを導入した展示</td></tr>
<tr><td colspan="2">また、山形県博連絡協議会加盟館に対して、新博物館が扱うべきテーマや、新博物館と県内の地域博物館との連携のあり方等に関する Web アンケートを行った。加盟館 70 館のうち、38 館から回答を受領しており、集約と分析を進めている。</td></tr>
</table>

調査名称	② 中学生ワークショップ（県民意見の収集・普及活動）
調査概要	県内中学生を対象に、「どんな博物館なら行きたいか」をテーマとした参加型ワークショップを開催する。事前の学校訪問でブレストを行い、当日は、現行県博の見学や企画立案、発表を通して意見を収集する。ワークショップは、マスコミや放送局へ依頼のうえ、県民に対して取り組みを発信し、新博物館への理解と関心を促す施策とする。
委員会の議論、構想書への活用	中学生から得られた声を、若い世代にとって魅力ある博物館づくりのヒントとして基本構想の検討材料として活用する。ワークショップ結果を広報・報告し、県民全体の理解と関心の醸成にも繋げる。
進捗報告	7 月の事前ワークショップでは、各中学校に赴き、博物館の役割や存在意義について導入学習を行った。8 月当日、博物館現地にて、学芸員による紅花体験学習や展示及びバックヤード見学を行った後、「新博物館ではどのような体験ができると嬉しいか」等をグループで意見を交わし、全体発表を行った。当日の様子は山形放送「やまがたサンデー５」で放送。今後は、中学生の意見やアイデアを整理し報告書作成、基本構想への反映を進める。 ▲当日の写真
調査名称	**③ インクルーシブに関する調査**
調査概要	博物館や美術館において重要視されている「合理的配慮」や「インクルーシブ」の考え方について、言葉の概念や他館での実践例、新博物館開館後の将来を見据えた展望を、専門家の知見を得るとともに、障がい者支援等当事者団体から意見をヒアリングする。
委員会の議論、構想書への活用	合理的配慮やインクルーシブに関わる専門的知見やヒアリング調査から、基本構想を検討するための材料として活用する。また今後の具体的な計画検討、連携可能性に向けた成果とする。
進捗報告	6 月以降、ICOM による定義や、博物館におけるインクルーシブデザイン導入事例等情報共有を行ってきた。新博物館基本構想の検討に係るインクルーシブデザイン研修会で専門家（京都大学塩瀬隆之准教授）から最新の知見を得る。また、10 月に障がい者支援等に関わる団体や実務者ヒアリングを実施する。